

# 震災体験伝え共有

## 日米の高校生が意見交換

気仙沼



県内と米国の高校生が、2月25日、気仙沼市の東日本大震災について意見交換するプロジェクトを担う人材育成を目指す「」の一環。

石巻市など沿岸部の6人と、米国ボストン市の11人が参加。被災した街を視察した後、意見を発表した。

仙台育英学園高1年菅原彩加さん(16)は石巻市に、がれきの中で動けずにいた母を助けられなかった体験を語り、「つらい思いをしている子どもたちを助ける仕事がない。国際ボランティアにも取り組みたい」と述べた。

米国から参加したバーバラさんは「震災を通して考えたことを発表する日米の高校生

チエル・マックさん(17)は「菅原さんの話に心が痛んだ。一人一人の体験談を多くの人に伝えたい」と話した。

気仙沼市大島出身で、自宅が流された仙台育英

学園高3年小野寺栄さん(18)は「震災の記憶を風化させてはいけない。一時的ではなく長期的な支援の必要性を海外に発信し続けることも必要だ」と強調した。